

令和5年度 実習Ⅰ シラバス

科目	実習Ⅰ	単位	2単位	対象	1年 染織デザイン科
目標	(1) 工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】 (2) 工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。【思考力・判断力・表現力等】 (3) 工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】				
内容	基本的な技内容を「染め」「織り」「デザイン」「色染化学」の4分野に分け、ローテーションで学習する。 1年工業技術基礎(2単位)と1年実習(2単位)を合わせ、計4単位で実施。 1. 染め ・紅型の歴史について ・筒描き紅型タペストリーの制作 2. 織り ・織物設計から製織までの工程を学習する。 ・タペストリーを制作し、手結い緋の技法を学習する。 3. デザイン ・デッサンを通して、モチーフを様々な角度から観察し、正確に描写する能力を養う。 ・色彩構成や図案制作を通し構成力と丁寧で美しい着彩技術を身につける。 4. 色染化学 ・主な化学染料について性質試験をする。 ・直接染料・酸性染料・反応性染料・建染染料(藍染め)など。				
〔学習のワンポイントアドバイス〕 1. 染め (1) 紅型の工程を理解し、基本的な紅型の配色と隈取りの組み合わせを覚える。 (2) 工程を理解し、日々の作業の要点をファイルに記録することが大切。 2. 織り (1) 織物の素材を知り、基礎知識と技術を習得すること (2) 経糸と緯糸が作り出す様々な色を体験すること 3. デザイン (1) 諸用具の正しい使い方、基本形態の観察、光の表現、透視図法と遠近感等を学習する。 (2) トーンと混色による着色、モチーフの構造分析、形態の単純化と図案化を学習する。 4. 色染化学 (1) 実験方法を十分に理解し、安全に実験を行う。 (2) 実験データをファイルに整理し、実験結果の振り返りまでしっかりと行う。					

令和5年度 実習Ⅰ シラバス

〔使用する教科書・教材等〕

- (1) 『染織デザイン』（工業760、実教出版）
- (2) その他、プリントや参考作品（紅型、織物などの作品、見本）など

〔評価の観点〕

・知識・技能

工業技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。

・思考力・判断力・表現力

工業技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。

・主体的に学習に取り組む態度

工業技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

〔評価の方法〕 次の(1)～(3)を上記〔評価の観点〕に照し合わせ、総合的に判断し評価する。

- (1) 授業中の内容が理解できているか、積極的に取り組んでいるか。
- (2) 課題やファイル等がきちんと提出されているか。
- (3) 日々の授業態度等。

〔進路との関わり〕

- (1) 美大・芸大・専門学校など、美術・工芸的な進学先で学ぶ知識の基礎となる。
- (2) 染織工芸の基礎知識として役立つ。